

『私らしさ』 - 電動車椅子からの発言

小林

礼

<http://www.interq.or.jp/kobayashi/>

[ray/](#)

仕事はフリーでホームページ作成の代行や文書編集を請け負っている、いわゆるSOHO。仕事が無いときは一人の時間を楽しみ新宿などにぶらりとでかけ、週に少なくとも1回は飲みに行って友達と騒ぎ午前様の帰宅。都会の一人暮らしを楽しむ30代、と書いて終わらせるならどこにでもいそうな人物。ただ、「言語障害もあり、食事介助が必要な電動車椅子の人間」と付け加えると、まず驚かれる。別に特別なことをしてはいないのにおかしいよなと(笑)。

私の母は厳しい、という声が多い。その割にその子供は「そんなに厳しいか」と認識していない(笑)。浜木綿子の『おふくろ』シリーズの「おふくろ」が厳しい母親なら、まさにあんな感じ。でも私がやりたいことは常に応援してくれた。「ものも一人で食べられないやつが大学に行ってなんになる。」と養護学校の教師に言われ続けた日々も、強く支えてくれた。

そんな私が、バリアだらけの大学を選び2年間の浪人の末入った。そうしたのも普通の社会で生きていくぞという気持ちの表れだった。確かに試験の配慮や車椅子で行きやすい教室への変更などは大学側に頼んだが、施設などは徐々に変わればいいことだし、別に私のために、誰か一人についてもらうとか、ノートテイクをやってもらうなんて考えもしなかった。通りすがりの人に声をかけて段差の上に車椅子を上げてもらったりドアを開けてもらったり、期末試験が近づくと普通の学生のように「ノートコピーさせてくれー」と騒いだり(爆笑)。今思えば、この経験が今の凶々しい私をつくった。サークル、ゼミ、飲み会、合宿、授業をサボりカラオケ、スキー、旅行と、多くの友達に囲まれながら普通の学生生活を謳歌した。

後の生き方を大きく変えた出会いは、学部4年の時。大学4年というと学生のほとんどは就職活動で大学にはいない。私も就職活動はしていたもののうまくいってなかったので、大学に行くと、留年が決まっていたゼミの友達と、そのバイク仲間の一人であり進学希望の他学部の学生が、社会調査の集計をパソコンでやっていた。もともとゼミ友とは相通じるものがあり、「はやりのインターネットをやりたいから教えて。」と言って近づいた。短期間で遊んだり飲んだりして仲良くなり、彼らは自助具選びから、パソコンの購入・設置・使い方に至るまで付き合ってくれた。それどころかお互いがどう生きて行くのかまで真剣に話し合える悪友になった。もう少し彼らと一緒にいたいと思ったころ、大学院の推薦入試の受験資格があることを知り、「就職がダメなら、俺と院にいけばいいじゃん。」と言う悪魔、いや悪友のささやき(笑)もあって、受験即合格。進学後、「修士課程に4年いていいから、自分の道を探せ。」と言う指導教官の寛大さの下、不まじめな院生生活が始まった。

勉強したいために進学したというわけではなかったのに、「ここにいてもいいのよ」というジレンマはあったが、パソコンを使ってなんとか働きたいという気持ちで、障害者が集まる雑誌のBBSから障害者が主なメンバーのメーリングリストのことを知り参加。メーリングリストで、東京の電動車椅子の障害者が電車やバスを利用していることを知り、自分でも知り合った人達に会いに行くために一人で電車に乗ることを覚えた。またそういう人達から、パソコン・ボランティアの存在や、障害者の在宅就労を推し進めるNPO法人WeCAN!の設立を聞き、入会。さらに既に就職しWeb作成に携わる友達や、進学した悪友にいろいろ質問し、HTMLを勉強しながら、ホームページで自己表現の楽しさを知った。修士課程の最後の年には、一人だけで就職活動を茨城から東京に出て行き、その間のすべてがベンチャー会社から内定をもらうことにもつながった。

就職と同時に茨城から上京し、ホームヘルパーや自立生活センターからの介助者に、多い日で1日8時間支えてもらいながら一人暮らしを始めた。炊事・掃除などの家事の他に、洗面介助・食事介助・入浴介助などをお願いするわけだが、当然役所の申請や銀行の預金引き下ろしには自分で平日に行かなければならない。会社は理解があっただけで、在宅勤務で、就業時間を決めず期限内提出を求めてくれた。だがベンチャーでしかも取引先が海外のため、休日も仕事ということもしばしば。グータラ学生生活が長く続いた後で、規則正しい生活と仕事の自己管理の難しさから、会社は半年でやめることになった。

会社を辞めて10カ月後の2002年8月、個人事業主として開業した。仕事はまだ全体的に少ない。仕事量にも波があり、忙しいときは朝の3時頃までパソコンの前にいることもある。ただ一人暮らしにも慣れて来たこともあり、仕事を終わらせれば後は平日の昼間でも自分の時間なので、気が楽になった。SOHOとして働きながら、いろいろな所へでかけ、いろいろな人達と出会い、いろいろなものの考え方を学ぶ。今が楽しくてしかたがない。でもSOHOにこだわらない。会社員に復帰できる機会があればその時に考える。とりあえず今は、仕事に関係ありなしに関わらず人脈を広げたい。帰りが午前様になったというのに、最寄り駅に降りると駅員が笑顔で「おかえりーっ」と出迎えてくれるのが、うれしいのとはずかしいのと複雑なんだけれど(笑)。

と言いつつ、30歳の私にはまだ夢がある。それは社会保険労務士の資格をとること。内定が決まった際、補助金の種類を既に働いている障害者の方々からお聞きし、申請のしかたを調べた時からなんとなく興味をもち始めた。そして辞めた後も、私は家事をすべてヘルパーに任せられたけれど、私より障害が軽くて身辺自立ができる人が、就職して一人暮らしするってとても大変なんだろうなと思った。就職活動の経験もたぶん人一倍多いし、半年でも会社勤めも経験した20代の時間を無駄にしたくないと思い始めた。障害者就労に強い専門家を目指し、まずは一般的な制度・法律から勉強したくなった。でも勉強嫌いの私が、仕事をやりながらいつ資格がとれるかはわからないが(笑)。

今まで私は社会の現実を素直に受け入れてから、悲観的にならず、社会の中

で自分ができることを考えて行動してきたつもりである。周りから見れば無謀と思われたかもしれない(笑)。でもそれによって理解してくれた人も増えたと思うし、「ボランティアとかではなく、何にでも挑戦するお前が好きで付き合ってるんだから。」という悪友にも巡り会えた。奇跡的にも就職もした。これからもそのスタンスは変えないだろう。自分にしかできないことを探して。